

15回資源循環型肉牛生産シンポジウム2018
日本産肉研究会第22回学術集会
開催企画書

開催趣旨：

わが国の肉牛生産は、平成20年から始まった輸入飼料価格の高止まりや子牛不足による素牛価格高騰などの厳しい状況にさらされ、肥育牛出荷頭数の減少が続いています。このような国産牛肉供給量の減少を反映し、枝肉価格は上昇していますが、それを牽引しているのは外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要の増大や堅調な輸出需要などであり、需要の3割を占める家計消費は減少傾向が続いています。

近年、牛肉生産は経営規模が大型化するとともに、生産方式の規格化が進んでいます。そのような生産方式の中で、牛本来の生理に基づいた飼い方がなされているか、適切な飼養環境が維持されているか、飼料の安全性が確保されているかなど、まだ十分検討されていない課題が多々あるものと思われまます。そこで、本シンポジウムでは、家畜福祉の観点から現行の牛肉生産システムについて検討し、議論を深め、将来の牛肉生産の一助と致したいと思ひます。

本シンポジウムは毎年、環境リサイクル肉牛協議会、北海道アングス牛振興協議会および北海道短角牛振興協議会が主催していますが、今回は、日本産肉研究会の第22回学術集会および帯広畜産大学との共同開催となります。

シンポジウム開催15回目に当たり、家畜の福祉と牛肉生産の展望について、生産者、消費者、流通業界および大学・研究機関など多角的立場からの意見交換を行い、資源循環型肉牛生産の意義浸透を図ってゆきます。

シンポジウムテーマ：「家畜の福祉と牛肉生産」

日 時：平成30年11月8日(木) 13:00-17:00

会 場：帯広畜産大学 大講堂

共 済：環境リサイクル肉牛協議会、日本産肉研究会、帯広畜産大学、北海道アングス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会

後 援：北海道十勝総合振興局、帯広市、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、芽室町農業協同組合、NHK帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

参加費： 無料

内 容：（13:00-17:00）

1. 基調講演 「家畜の福祉と肉牛生産」
(株) グッドテーブルズ 山本謙治社長
2. 話題提供 1. 「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制との
位置付け」 立教大学経済学部 大山利男准教授
話題提供 2. 「アニマルウェルフェアの評価基準」
帯広畜産大学 瀬尾哲也准教授
話題提供 3. 「有機畜産の理想と現実」
北里大学獣医学部附属 FSC 八雲牧場 小野泰係長
話題提供 4. 「大自然を家庭の食卓に『ボーンブロス・八雲』について」
公式通販ショップルルド 諸江栄美代表
話題提供 5. 「赤身評価の最近情報」
帯広畜産大学 口田圭吾教授
3. パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表
4. 意見交換会 eビーふ大焼肉すきやきパーティー
(講演終了次第開始 17:00～)
帯広畜産大学 逍遙舎 口田研究室協力
希望者のみ 参加費 ¥3,500
5. 現地検討会：11月9日(金)
10:00 大樹町 (株)坂根牧場 アニマルフェア認定酪農家

参加対象者および参加予定人数：

道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、流通業界関係者、消費者団体関係者、大学・試験研究機関関係者 約 150 名

実行委員会：

環境リサイクル肉牛協議会、日本産肉研究会、
北海道アンガス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会

事務局：

連絡先：(特非) 環境リサイクル肉牛協議会 理事 花房俊一
〒080-0047 帯広市西 1 7 条北 2 丁目 4 4-1 0 北の牧場舎
Tel/Fax:0155-66-5159 : 090-5198-4090
E-mail: kanrikyo@e-beef.jp

シンポジウム申込み先：

(地独)道立総研機構 畜産試験場 肉牛G 佐藤幸信
Tel:0156-64-5321 Fax: 0156-64-3212
E-mail: satou-ukinobu@hro.or.jp